

## システム及びソフトウェアを開発・利用する共通の枠組みを提供する JIS を改正

- 受発注者間での相互理解をより円滑に -

2020年6月22日

近年、多様で大規模なシステム及びソフトウェアが増えていますが、これらの開発・利用には、受発注者が共通認識を有することが必要です。これを支援するための国際規格群及びそれと整合した JIS 群が存在します。今般、そのうち文書化の項目を規定した JIS X0171 を改正し、情報伝達手順や情報セキュリティ手順などの新たな情報項目<sup>1</sup>を追加しました。

この JIS の活用により、国内外の受発注者など関係者間での相互理解が一層促進され、ひいてはシステム及びソフトウェアの開発が進展されることが期待されます。

### 1. 改正の必要性和背景

近年、多様で大規模なシステム及びソフトウェアが増えていますが、これらの開発・利用には、業種や取引形態が異なる複数の企業がグローバルに関与することもめずらしくありません。そのような状況下で高品質のシステム及びソフトウェアを効率的に開発し、利用するためには、開発後の利用・保守を見据えて、受発注者が共通認識を有することが不可欠です。

そのために、システム及びソフトウェアのライフサイクルの全期間（構想、開発、生産、運用、保守、廃棄）にわたって行う工程、作業、行動などが JIS X 0160 及び 0170 で決められています。これら多くの工程の中に、文書を作成・管理する工程（文書化工程）が含まれていますが、その詳細が述べられていません。そこを補完するのが JIS X 0171 です（下表参照）。

JIS X 0171 は、文書化工程で文書を作成するときに必要となる多くの情報を、情報項目とよぶ比較的小さな単位の情報の集合を定め、情報項目とその意義を明確に定義することにより、発注者と受注者間で交わされる文書の相互理解の円滑化を図っています。

今般、対応国際規格が改正され、整合化を図るためにこの JIS を改正することとしました。

表 JIS X0171 と関連 JIS との関係

国際規格	対応 JIS	各規格が規定するもの
ISO/IEC/IEEE 12207:2015	X0160	ソフトウェアを開発し利用するための工程、作業、行動 (この中で文書の作成要求あり)
ISO/IEC/IEEE 15288:2015	X0170	システムを開発し利用するための工程、作業、行動 (この中で文書の作成要求あり)
ISO/IEC/IEEE 26531:2015	X0154	上記文書を作成するための、コンテンツ作成及び管理
ISO/IEC/IEEE 15289:2017	X0171	上記文書に記載される項目 (94 個の情報項目)

### 2. 改正の主なポイント

<sup>1</sup> 情報項目 (Information item): 例えば、“導入計画”、“情報伝達手順”、“インシデント報告”などの項目。今回の改正を含め、全体では計 94 個の情報項目が存在する。

今回の改正では、対象とするソフトウェア及びシステムの範囲が広がり、ミッションクリティカルシステム（24時間365日稼働し続け、絶対に停止や誤作動があってはならないシステム）などを考慮すべきとの国際的認識が高まったことから新たに情報項目が8個追加され、計94項目となりました。

【今回新規追加された情報項目】

- 情報伝達手順
- 文書化手順
- 改善手順
- 情報管理手順
- 情報セキュリティ手順
- 測定手順
- 妥当性確認手順
- 検証手順

### 3. JIS 改正の期待効果

このJISに基づきソフトウェア及びシステムの開発や利用が進展することで、例えば、発注者と受注者間での認識の齟齬や手戻りを減少させることができるなど、国内外の関係者間の相互理解が一層促進され、ひいては多様で大規模なソフトウェア及びシステムの開発が進展することが期待されます。

日本産業標準調査会（JISC）のHP（<https://www.jisc.go.jp/>）から、「X0171」でJIS検索すると本文を閲覧できます。

#### 補足

現在の開発環境では、紙の文書を作成することはまれであり、JIS X 0154 で規定しているコンテンツ管理を利用して、このJIS X0171 で規定している情報項目を作成・管理すると、それらに基づいて必要な文書を電子的に作成することができます。

【担当】 経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課 ([s-iec@meti.go.jp](mailto:s-iec@meti.go.jp), 03-3501-9287)  
(課長) 中野 (担当) 佐藤(貴)、林